

岩石標本の産地を推理する

松江 千佐世¹⁾

1. はじめに

地質標本館では、研究の終わった岩石・鉱物・化石などの地質標本を研究者から受入れ、登録・管理等の諸作業を行ったのち、検索用のファイルを整備して、将来の研究をはじめとして各方面からの再利用の要望に便宜を計ることにしています。登録済みの地質標本は、1992年6月末現在で、展示公開されている標本と収蔵庫に納められている標本とを合わせると岩石約59,000点、鉱物約14,000点、化石約21,000点の計約94,000点に達しています。これらは、電算機を利用した「地質標本管理・検索システム-GEMS (Electronic Data Processing System for Geological Museum Samples-II)」(松江ほか, 1988)や「簡略型地質標本管理・検索システム<GEMS-II T>」(松江, 1990)および「地質標本画像情報処理システム<GEMS-III>」(松江, 1991)により管理されています。

こう説明してしまうと話は簡単なように見えますが、さて実際にこの作業を進めてみますと、システム設計の時には思いもよらなかったような「事件」がつつぎと現れてきて、私たち担当者を悩ませます。また、そのような小さな「事件」を知恵をしばって「解決」していくことによって、なかなか表には出にくい、いろいろなこつも身についてきます。それらは、標本の管理についてふだんから関心を持っておられる大学の地質関係の教室や博物館、あるいは個人の収集家にも、いくらかのご参考になることでしょう。その意味で、これまでの「経験」のいくつかを皆様にご披露することにしました。

ただし、これから述べる内容は主として岩石標本の場合であることを、あらかじめお断りしておきます。

なお、電算機を利用した標本管理・検索システムの構築と運用に関わる実体験については、坂巻・松

江(1991)で述べていますので、ここでは省略します。

2. 標本の基礎情報

研究者の方々が野外に出かけて、岩石試料を採集してきます。野外から持ち帰ったままの岩石試料が、一次情報として持っているものに、産地、産状、採集者、採集番号、野外岩石名(野外で肉眼鑑定により付けられる岩石名)、採集の時期などがあります。これらの基礎情報は、採集者によってしか得られない場合が普通なので、採集者としては、これらの基礎情報を標本に添えてきちんと伝達できるように細心の注意を払って欲しいと思います。標本名は、かりにそれが分らなくても再同定してつけ直すことはできますが、特に、産地に関する情報が欠けた場合は最悪の事態です。その情報を採集者以外の人の知識で復活することはほとんど不可能なこととなります。もちろん、産地の分らなくなった標本はその価値のほとんどを失ってしまいます。

3. 標本の受入れ

標本の入手方法としては寄贈・交換・購入などもありますが、基本的には、前述のように所内の研究者から研究が一応終了したものを受入れることにしています。受入れの際に、地質標本とともに登録用紙(上述の標本の基礎情報などをはじめ、登録に際し必要な項目を記入するための用紙)、採集地点図および標本ラベルなどの提出を要請しています。地質標本館側ではこれらに基づいて諸作業を進めることとなります。そして、登録作業の各過程を終えたものは、最終的には収蔵庫に収納・管理され、再利用されることとなります。

1) 地質調査所 地質標本館

3.1 登録用紙

提出者が、標本の登録に必要な各項目を記入します。各項目とは、前述の基礎情報(産地、産状、採集者、採集番号、採集の時期など)のほか、地質時代、岩体・地層名、標本名、5万分の1地形図名、測定・分析の種別などがあります。なお、現在使用している登録用紙は2種類あります。一つは、例えば、図幅調査の時に得られた標本のようにま

りを持った標本の登録をする時に効率的な設計としたもので、A用紙(定義用、第1図-A)とB用紙(個別リスト:1枚で21件分の記入を可能、第1図-B)が1式になっているものです。他の一つは、用紙1枚で1件分の標本に対応している個別登録用のものです。

3.2 採集地点図

岩石標本の採集地点を原則として国内に限り5

DS-01A (1989)

標本登録用定義リスト (A)

巻籠
作成 1992年 3月 27日
提出者 山田直利

略記内容		選取記入項目 1	
A) 岐阜県中津川市	21206	S) Rhyolite welded tuff	採集番号 (※提出者の場合)
B) " 恵那郡坂下町	21561	T) Rhyolacite " "	地質時代
C) 長野県木曾郡山口村	20431	U) Hornfels	記載文献
D) " " 南木曾町	20423	V) Granodiorite porphyry	参考文献
E) " " 下伊那郡清内路村	20406	W) Granite porphyry	種名
F) 巻籠 (1/50000地形図) Ni53-01-07		X) Hb-bt granodiorite	種名
G) 領家変成岩類		Y) Hb-bt granite	種名
H) 遷移流紋岩類		Z) Bt granodiorite	種名
I) 戸沢層		0) Bt granite	種名
J) 恵那山流紋凝灰岩層		1) 長野県下伊那郡阿智村	20407
K) 富士見台		2) 岐阜県恵那郡川上村	21562
L) 南沢山		3) 赤石流紋凝灰岩層	
M) 東 栄		4) 9森林	
N) 阿寺層		5)	
O) 檀古木花崗岩		6)	
P) 伊奈川		7)	
Q) 苗木上松		8)	
R) 木曾駒		9)	

選取記入項目 2

- * 測年 (測年方法): 53.85Ma(Ah, 1000BP)Cite.
- * タイプ: Holo, Para, Spa, No, Togo, Pogo, Pano, Lento.
- * 岩石名: 片麻岩, 水成岩類, コア, 假(深部), 砂岩, 礫岩, 凝灰岩, 凝灰岩, 凝灰岩, 凝灰岩.
- * 分析測定方法: 主成分, 微量成分, 同位体(放射線), X線回折, 電顕, 示差熱, 熱重量, 光学的, モード, 磁気, 比重, 力学性, 他.
- * 産状 (産出地): Lava flow, Dike, Ash flow, Bubbled, etc.
- * サイト: 露頭, 掘石, 坑内, スリ, トレンチ, 鉄線, ドレッジ, グラブ, 水底コア, 他.

使用範囲

R53509 ~ 53589 付録-2, 3, 4, 5

第1図-A
登録用紙(定義用)

DS-01B (1989)

標本登録用個別リスト (B)

巻籠-1
選取番号の ? Y/N
(採集者一提出者 ? Y/N)

番号	登録番号	原番号	標本名	産地名	岩体・地層名	地形図名	備考
1)	53509	67TM501	O)	長寿畑林道	Q)	F) 1)	1957 11.11
2)	53510	502	O)	"	Q)	F) 2)	"
3)	53511	504	O)	"	Q) + B)	F) 2)	Very contact
4)	53512	506	B)	"	B)	F) 2)	"
5)	53513	507	O)	"	Q) or P)	F) 2)	"
6)	53514	508	O)	"	Q) or P)	F) 2)	"
7)	53515	509	O)	清内路峠 N	Q)	F) 2)	"
8)	53516	510	O)	"	Q)	F) 2)	11.15
9)	53517	511	O)	"	Q)	F) 2)	"
10)	53518	512	O)	"	Q)	F) 2)	"
11)	53519	513A	O)	"	Q)	F) 2)	"
12)	53520	513B	O)	"	Q)	F) 2)	"
13)	53521	514	S)	"	H) J)	F) 2)	"
14)	53522	515	S)	"	H) J)	F) 2)	"
15)	53523	516	S)	"	H)	F) 2)	"
16)	53524	517	S)	南沢山 N	H) D)	F) 2)	11.16
17)	53525	518	S)	南沢山 N	H)	F) 2)	"
18)	53526	519	S)	"	H) G)	F) 2)	"
19)	53527	520	S)	"	H) G)	F) 2)	"
20)							
21)							

提出者 山田直利
登録番号 (19件)
From: R53509
To: 53527
受入 1992年 4月 4日
(追加標準)

第1図-B
登録用紙(個別リス
ト)

万分の1または2.5万分の1などの地形図に記入します。採集地点を地形図上に×印で記入し、採集番号を併記します(第2図)。国外の標本に関しても産出地点の分る地図がある場合には、そのコピーなどに採集地点と採集番号を明記するよう要請しています。

3.3 標本ラベル

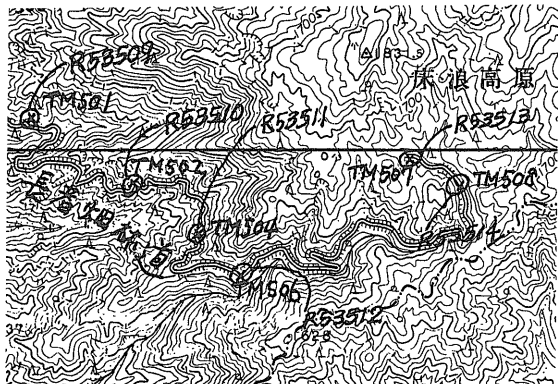
登録標本と一緒に標本小箱に入れて管理するために標本ラベル(第3図)が必要となります。それには、標本の基礎情報が明記されていることが望ましいといえます。野外での採集メモとして記入されたものでも構いませんが、初期情報として採集者の自筆によることが重要な意味を持っています。保存性を重視しなければならない担当者の立場から言えば、ラベルの紙質とインクの性状は大きな意味を持ち、可能な限り上質のものを使うのが望ましいと言えます。古来の和紙・墨・朱墨は現在でも保存性から見れば最高に信頼のおける素材ですが、そこまでいかなくても染料系のインクは避けて製図インクを用いるとか中性紙を選ぶとかの注意は必要です。止むなくプリンタ出力を使う場合にも、保存性の悪い感熱紙を用いてはなりません。その場合は、トナータイプの複写機でコピーして印字を「定着」させます。効率上仕方ない場合もありますが、保存用ラベルにプリンタ出力を使うことに私たちは批判的です。理由は、ラベルに「個性」がなくなるので万一の場合、原提出者にさかのぼれなくなるからです。肉筆の場合はある程度そこから個人名が推定でき、失われた情報を聞き出せることにつながる場合があります。ですから、OBの方々の筆跡の収集とファイル化も私たちの仕事の一部です。

4. 標本情報の入力

最近では、提出された登録用紙に記入された情報を、岩石標本の受入れと同時に標本検索用ファイルに入力するようにしています。この段階では、提出された登録用紙の記入内容に加えて、産地の行政区に対応する産地コード(5桁の数字)なども加えて入力します。産地コードには、都道府県コード JIS X0401(通産省, 1991a)および市区町村コード JIS X0402(通産省, 1991b)(第4図)を採用しています。そして、入力の済んだ標本検索用ファイルを使って標本とともに保管するための標本ラベルをA4用紙またはB4用紙に横に2件分ずつで、用紙1枚には10件分または14件分をプリンタにラベル出力(第5図)します。この出力された標本ラベルは、裁断機を使って1枚1枚に切り離します。こうして作成された標本ラベルと採集者から提出された標本ラベルの両方を、登録標本と一緒に保管することになります。

5. 情報入力の実例から

岩石標本として登録されている最初の部分であるGSJ R1~1170について情報入力を行い、標本検索用ファイルを作成しました。入力項目としては、登録番号、標本名、産地コード、産地名1(都道府県名と市区町村名にあたる部分)、産地名2(都道府県と市区町村名を除いた字名など)、ヨミ産地名2(産地名2の読み方)、1/5万(5万分の1地形図名)、



第2図 採集地点図

R53511

Collection of Geological Survey of Japan

No.	TM. 504
Name	Bt. gr. + スリコキ gr.
Locality	妻籠 長舌大畑

Tokyo Japan
第3図 標本ラベル

09

栃木県

201	宇都宮市	うつのみやし
202	足利市	あしかがし
203	栃木市	とちぎし
204	佐野市	さのし
205	鹿沼市	かぬまし
206	日光市	にっこうし
207	今市市	いまいちし
208	小山市	おやまし
209	真岡市	もおかし
210	大田原市	おおたわらし
211	矢板市	やいたし
212	黒磯市	くろいそし

第4図 市区町村コード

ヨミ1/5万, 採集者, ヨミ採集者, 岩体・地層名, 標本の有無, 薄片の有無, 備考などがあります。標本検索用ファイルへの情報入力作業は, 登録番号順に進めてみました。この登録番号順による標本検索用ファイル(第6図)を, ①産地コード, ②ヨミ産地名2, ③標本名(英名表示), ④ヨミ1/5万地形図名, ⑤登録番号で, ①→②→③→④→⑤の順序に従って並べ替え, 産地別ファイル(第7図)を作成しました。

これらのうち, 岩石標本とともに保管されていた古い標本ラベルに一部採集時期の明記されたものがあり, 多くは昭和20年代となっています。そのことから現物を見て判断すると, 現在までに登録されている岩石標本の中では比較的古いものが多く, それらの中には産地名の不完全なものをはじめ, 標本の基礎情報が一部欠けていたりするものも沢山あります。中には岩石標本そのものが行方不明という場合もあります。そのようなことをはじめ問題はさま

ざまありますが, データの不完全なものは不完全なままに一応入力することとし作業を進めました。

産地として都道府県名や市区郡町村名などが全く不明で字名しか分っていないものは19件ありました。これらについては, 産地コードをつけることができません。従って, 「産地不明」のコードを情報入力時に設定して付けてみることにしました。その結果, 産地別出力リスト中の「産地不明」の項目にそれら19件(第8図)がまとまりました。その次の段階として, これらの産地不明標本を含め, 産地別出力リストの内容チェック作業が開始されました。実際の作業は, 収蔵庫で, 産地別出力リストの内容と岩石標本およびそれと一緒に保管されている標本ラベルの記載内容との照合が中心です。この作業の過程で特に気付いたこと, 特に採集者の自筆と思われる標本ラベルの記載内容や岩石標本そのものに記載された内容は見落とさず, そのリストの空欄にメモとして付け加えました。

6. 自筆のラベルは重要な鍵

登録番号順の出力リストでは気付かなかったことですが, 前述の照合作業で作ったメモ付の産地別出力リストを見てふとあることに気付きました。産地不明標本19件の内の6件の標本ラベル内容に関して,

- ①標本名は全て siltstone(シルトストーン)で一致していること,
- ②毛筆で書かれた“小林”という人の姓であろうと思われる記載があり, しかも全て筆跡が一致していること,
- ③産地名として字名のようなもの, “萱ノ沢柳沢入口”, “梨平”, “楢山”, “ヤナギタテ”, “ヤサ

登録番号 53509 原番号 67TM501
 標本コード P120
 標本名 Bt granite
 産地名1 長野県木曾郡南木曾町
 産地名2 長者畑林道
 1/5万 妻籠
 採集者 山田直利 薄片ナシ
 地層名1 苗木・上松花崗岩
 地層名2
 備考 1967.11.11(採)

登録番号 53510 原番号 67TM502
 標本コード P120
 標本名 Bt granite
 産地名1 長野県木曾郡南木曾町
 産地名2 長者畑林道
 1/5万 妻籠
 採集者 山田直利 薄片ナシ
 地層名1 苗木・上松花崗岩
 地層名2
 備考 1967.11.11(採)

第5図 標本ラベルのプリンタ出力

コード	登録番号	標本名	産地	産地 1	産地 2	1 / 5 万
1	00001	Ms-bt granite	23211	愛知県豊橋市	平田村	田井
2	00002	Ms-bt granite	35344	山梨県北杜市	平田村	田井
3	00003	Ms-bt granite	08464	山梨県北杜市	平田村	田井
4	00004	Ms-bt granite	23561	山梨県北杜市	平田村	田井
5	00005	Ms-bt granite	23202	山梨県北杜市	平田村	田井
6	00006	Ms-bt granite	23544	山梨県北杜市	平田村	田井
7	00007	Bt granite	41305	山梨県北杜市	平田村	田井
8	00008	Bt granite	28102	山梨県北杜市	平田村	田井
9	00009	Bt granite	37343	山梨県北杜市	平田村	田井
10	00010	Bt granite	37322	山梨県北杜市	平田村	田井
11	00011	Ms granite	37343	山梨県北杜市	平田村	田井
12	00012	Bt granite	35327	山梨県北杜市	平田村	田井
13	00013	Ms-bt granite	23543	山梨県北杜市	平田村	田井
14	00014	Ms-bt granite	24208	山梨県北杜市	平田村	田井
15	00015	Porphyritic bt granite	08503	山梨県北杜市	平田村	田井
16	00016	Bt granite	33205	山梨県北杜市	平田村	田井
17	00017	Bt granite	08503	山梨県北杜市	平田村	田井
18	00018	Bt granite	37202	山梨県北杜市	平田村	田井
19	00019	Bt granite	24207	山梨県北杜市	平田村	田井
20	00020	Bt granite	15301	山梨県北杜市	平田村	田井
21	00021	Bt granite	21598	山梨県北杜市	平田村	田井
22	00022	Hbl-bt granite	33201	山梨県北杜市	平田村	田井
23	00023	Pegmatite	08220	山梨県北杜市	平田村	田井
24	00024	Pegmatite	23543	山梨県北杜市	平田村	田井
25	00025	Granodiorite	23522	山梨県北杜市	平田村	田井
26	00026	Hbl-bt granite	23522	山梨県北杜市	平田村	田井
27	00027	Ab-bt granite	23522	山梨県北杜市	平田村	田井
28	00028	Granite	33201	山梨県北杜市	平田村	田井
29	00029	Hbl-bt granite	28421	山梨県北杜市	平田村	田井
30	00030	Hbl-bt granite	23544	山梨県北杜市	平田村	田井
31	00031	Hbl-bt granite	33201	山梨県北杜市	平田村	田井

第6図 標本検索用ファイル

レコード	産地	産地 1	標本名	1 / 5 万	登録番号	標本	薄片
131	立	立	Limestone	日	00920	.T.	.F.
132	立	立	Limestone	日	00926	.T.	.F.
133	立	立	Slate	日	00891	.T.	.F.
134	立	立	Marble	日	00815	.T.	.F.
135	立	立	Phyllite	日	00736	.T.	.F.
136	立	立	Chloritoid schist	日	00735	.T.	.F.
137	立	立	Marble	日	00808	.T.	.F.
138	立	立	Marble	日	00824	.T.	.F.
139	立	立	Marble	日	00826	.T.	.F.
140	立	立	Marble	日	00829	.T.	.F.
141	立	立	Marble	日	00730	.T.	.F.
142	立	立	And-bg qtz-sericite schist	日	00982	.T.	.F.
143	立	立	And-qtz schist	日	01110	.T.	.F.
144	立	立	Marble	日	00827	.T.	.F.
145	立	立	Marble	日	00831	.T.	.F.
146	立	立	Limestone	日	00805	.T.	.F.
147	立	立	Marble	日	00809	.T.	.F.
148	立	立	Marble	日	00832	.T.	.F.
149	立	立	Mylonitized granite	日	00148	.T.	.F.
150	立	立	Chloritoid schist	日	00732	.T.	.F.
151	立	立	Chloritoid schist	日	00735	.T.	.F.
152	立	立	Chloritoid schist	日	00798	.T.	.F.
153	立	立	Mylonitized granite	日	00188	.T.	.F.
154	立	立	Chloritoid schist	日	00734	.T.	.F.
155	立	立	Mylonitized granite	日	00189	.T.	.F.
156	立	立	Marble	日	00822	.T.	.F.
157	立	立	Arkose sandstone	日	00162	.T.	.F.
158	立	立	Cld schist	日	00668	.T.	.F.
159	立	立	Crd-mica schist	日	00865	.T.	.F.
160	立	立	Gp-bg sericite schist	日	00583	.T.	.F.
161	立	立	Limestone	日	00821	.T.	.F.
162	立	立	Marble	日	00812	.T.	.F.
163	立	立	Marble	日	00818	.T.	.F.
164	立	立	Accretionary lapilli	日	00958	.T.	.F.

第7図 産地別ファイル

997	① 白別ノ沢	S230	Sandstone	01105
998	② 通津	S251	Siltstone (小林)	01035
999	③ ヤマノリヤサキ<210段新<制>製210日>	S251	Siltstone (ノ)	01043
1000	④ 鶴川(尾戸)	S253	Shale	01037
1001	⑤ (尾戸川)ノ	S253	Shale	01075
1002	⑥ 石平川井出橋の下流	P120	Bt granite	00883
1003	宇戸村	① 宇戸谷 P320	Qtz diorite <現場ナシ>	01077
1004	小泉村	② 大原 S410	Radiolarian chert	01018
1005		③ 男嶽3号坑 S310	Crystalline limestone (Skarn)	00924
1006		④ 萱ノ沢柳沢入口 S251	Siltstone	01042
1007	東川村	⑤ 下山川 S230	Sandstone	01076
1008		⑥ 須湖と高薄の間 P120	Bt-mica granite	01021
1009		⑦ 千原南西藤平橋? T330	Piemontite schist	01112
1010		⑧ 梨平 S251	Siltstone (小林)	01040
1011		⑨ 檜山 S251	Siltstone (小林)	01034
1012		⑩ 西沢 P120	Bt granite	01022
1013		野原の北東800m橋際 P020	Pegmatite	00024
1014		⑪ 日浦と黒森峠の間崖下 H200	Prophyllite	00988
1015		⑫ 日浦-黒森峠の間崖の下 V310	Prophyllite	00424
1016		⑬ 富士山六合目 V700	Volcanic bomb	01123
1017		⑭ 森石田 P120	Bt granite <現場ナシ>	00119
1018		⑮ 森田石 P120	Bt granite	00979

第8図 「産地不明」の19件

キ”，“？澤(？は達筆すぎて判読不能)”としか記載されておらず，都道府県・市区郡町村名が全く不明であること，

という共通点を見出しました。これらがヒントとなり多分採集者は同一人物であり，なおかつ採集地域は近接しているのではないかということ推理しました。

7. 大変役立った産地名辞典類

この推理に従って，「日本地名索引(下)」(金井，1981)からこの6件の地名をおのおの検索することにしました。それらの読み方，都道府県名，5万分の1地形図名などは以下のようにリストアップできます。

梨平	〈行政区〉	〈1/5万地形図名〉
①なしひら	秋田市	秋田
②なしだいら	福島県	関
③なしだいら	新潟県	高田東部
④なしだいら	長野県	白馬岳
榎山		
①ならやま	北海道渡島	大沼公園
②ならやま	岩手県	一戸
③ならやま	秋田県	田沢湖
④ならやま	新潟県	加茂

これらについて「新日本分県地図」(国際地学協会出版部，1992)で地図上の位置を確認しはじめました。まず手始めに秋田市にある“梨平”を探している時，偶然近くに“榎山”という地名を発見しました。そしてこう推理したのです。「もしかして，それらの地名は，秋田市域内に存在するのではないだろうか？」

それで，他の地名も秋田市内で探しはじめました。結果は，次の通り。予想はみごとに的中です。

- ①秋田市榎山
- ②秋田市下北手梨平
- ③秋田市下北手柳館
- ④秋田市下北手谷崎
- ⑤秋田市広面柳沢
- ⑥秋田市下北手通沢(前述の“？澤”は“通沢”と表記されているのではないかと思い，自筆の古い標本ラベルで再度点検し，そう読み取れることを確認しました。)

今度は地質図との対応になります。秋田地域の地質(藤岡ほか，1977)の5万分の1図幅を参考にして上の各地点で「siltstone がでてもおかしくはない」ことを確認してもらいました。このような苦勞のかいあって，長い間産地不明のままとなっていた6件はここですっきりと解決しました。

こうなれば，残り13件についても，何とか調べられないものかと欲がでてきます。そして，産地名に関して“日浦と黒森峠の間”としか記載のない2件についても「日本地名索引(下)」による調査を試みました。普通の書き方としては，この2つの地名はルートの両端を表し，場所としてはかなり近いはずですが。従って，この2ヶ所の地名が隣接している地域をみつければよいだろうと考えました。「日本地名索引(下)」からまず“黒森峠”をリストアップすると，次のようになります。

- ①岩手県 葛巻
- ②秋田県 稲庭
- ③秋田県 六郷
- ④福島県 猪苗代湖
- ⑤愛媛県 松山南部

次いでそれらの近辺に“日浦”という地名のある所を探したところ，予想通りの地域がありました。“愛媛県温泉郡川内町日浦と黒森峠の間”で，地形図名は“松山南部”。5万分の1地形図を実際にみましたら，みごとにありました。みつけた時は感動しました。標本名はどちらも“prophyllite”となっていましたので，これも地質図から確かめました。

同様の方法で，“須淵と高薄の間”も“愛知県岡崎市須淵町と額田郡額田町高薄の間”で，5万分の1地形図名は“御油”ということが分かりました。

これで残りは10件。この中の3件については村名が一応分っているので何とか調べられると確信しました。まず，地質標準課にある「全国市町村名変遷総覧」(尾中，1979)で調べようとしたのですが，残念ながらこれは都道府県別に編集されていて直接市町村名が検索できません。地質調査所の資料室なら何か適当な文献があるのではないだろうかと思い，探してみました。「市町村名変遷辞典」(地名情報資料室，1991)にめぐりあうことができました。“これだー”と思いきり大声で叫びたい気持ちを抑えながら調べました。

“小泉村大原”については，

- ①宮城県本吉郡小泉村→本吉郡本吉町
- ②福島県田村郡小泉村→郡山市
- ③群馬県邑楽郡小泉村→邑楽郡大泉町
- ④山梨県北巨摩郡小泉村→北巨摩郡長坂町
- ⑤岐阜県安八郡小泉村→大垣市
- ⑥岐阜県可児郡小泉村→多治見市小泉町
- ⑦静岡県駿東郡小泉村→裾野市
- ⑧広島県豊田郡小泉村→三原市

の8件をリストアップすることができ、これらの中に「新日本分県地図」で“大原”という地名の存在している所としては“多治見市”しかないことをつきとめました。

同様に“宇戸村宇戸谷”と“東川村下山川”についても各々“岡山県小田郡宇戸村→小田郡美星町”と“高知県香美郡東川村→香美郡香我美町山川下山川”であることが分かりました。

結局、産地不明のままなのは、①臼別の沢、②?川(室戸層)、③産地名はなく安キ川層、④男嶽3号坑、⑤西沢、⑥森石田、⑦森田石、の7件になりました。しかし、②～③は四国室戸岬周辺という予想が立ちますし、④は鉱床関係の文献から検索できる可能性を残しています。これからは、こういったより困難な「捜査」を必要とする標本が、残っていくことでしょう。

8. 地質標本登録の意味

地質標本を登録するための準備作業に費やす研究者の方々の手間が、大変なことは非常によく分ります。なぜなら、「登録のための記入はなるべく簡単に」とか、「地質標本ラベルと登録用紙は記入内容が重複している。片方だけで良いようにしてくれ」などといわれることがしばしばあるからです。もちろん、登録のための研究者の負担をできる限り少なくするようにシステムの内容自体にいろいろな検討を加え、改良もしていますが、それでも研究者自身の手で進めなければならない最小限の作業は、ぜひ済ませておいて頂きたいと思います。特に職員の減少は、研究者をよけい忙しくさせ、それを助けるアシスタントも、全国の地理にはそれほど詳しくないアルバイトの人が増えています。ラベルや登録用紙への記入は、よくこうしたアルバイトの人に一任されていますが、その場合にも、仕上がりには必ず研

究者が目を通し、正確を期してほしいものです。さもないとこの段階でおきたまちがいや脱落があとあとまで響きます。それらの誤りの多くは、項目別の並べ変えで発見されますが、その段階まで来てしまったからの再修正は、相当の手戻りとなり日常の登録作業の流れに支障をきたします。

多くの努力を払って地質標本を登録することにはいくつかの重要な意味があります。そのうちで最も大きいのは、試料に公共財としての性格を持たせるということでしょう。一度登録された標本は、もはや研究者個人の私物としてではなく、原則として、その利用は将来にわたって国内外の全ての研究者に公開されることになります。このことは、学問上の対立者を含めて追試の機会を平等に保証することを意味し、そのことを通じて研究の客観性を保証し、価値を高める役割を果たします。

9. おわりに

地質調査所の内外を通じて、標本を提供して下さる多くの方々に、ここで改めてお願いしたいことは、地質標本には上述のような重要な役割がありますので、「面倒だな」と思わないで、ぜひ標本自身の内蔵している多くの情報が陽の目を見ることのできるようご協力頂きたいと思います。登録用紙の記入事項の省略や秘匿なども極力せずに、分かっていることは全て記入して頂けたらと思います。

柴田ほか(1973)も指摘しているように、標本の一点一点に付ける標本ラベルには、大きさの制約などから、情報を全て表示することはできません。一方、標本の持つ(それから引き出せる)豊富な情報をフルに活用できるデータベースを構築する上では、情報量は多い程よいといえます。この矛盾を解決するためには、登録のために標本が持ち込まれた時点で、出来る限り関連情報を整備しておくことが重要となります。

地質標本は、特別な事がない限り半永久的にいつまでも残ります。あなたのまわりに眠っている地質標本はありませんか?。地質標本は、研究者一人一人の手から登録され、公開される日の来ることを待っているかもしれません。

さらによりよい標本管理システムの開発は継続されていくことでしょう。

謝辞：元地質標準課員の一色直記氏には、地質図での産地の確認などにご協力を頂きました。地質標本館の坂巻幸雄主研には、標本のチェック作業および地質図での産出地点の確認などにご協力を頂くとともに、本原稿を読んで頂き改善のためのご助言とご教示も頂きました。ここに関係者に厚く感謝致します。

文 献

地名情報資料室編(1991)：市町村名変遷辞典。東京堂出版，864p.
 藤岡一男・大沢 穰・高安泰助・池辺 穰(1977)：秋田地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)。地質調査所，75p.
 金井弘夫(1981)：日本地名索引(下)。アポック社，653p.
 国際地学協会出版部編(1992)：新日本分県地図。国際地学協会，643p.
 松江千佐世・坂巻幸雄・山田直利(1988)：改良型地質標本管理・検索システム〈GEMS-II〉開発。情報地質，no. 13, 187-203.
 松江千佐世(1990)：リレーショナル・データベース“dBASE III

PLUS”を利用した地質標本データのファイリングと活用—簡略型地質標本管理・検索システム〈GEMS-II T〉を例にして—。地質調査所，95p.
 松江千佐世(1991)：地質標本画像情報のビデオ・ファイリングと検索—地質標本管理・検索システム GEMS-IIIの試行例—，情報地質，2, no. 4, 379-384.
 尾中郁夫(1979)：全国市町村名変遷総覧。日本加除出版，1244p.
 坂巻幸雄・松江千佐世(1991)：鉱物標本管理・検索システムの構築と運用—地質調査所地質標本館での実体験から—。鉱物学雑誌，20, no. 3, 133-140.
 柴田敏隆・太田正道・日浦 勇編(1973)：自然史博物館の収集活動。日本博物館協会，300p.
 通産省(1991a)：都道府県コード JIS X 0401。日本規格協会，4p.
 通産省(1991b)：市区町村コード JIS X 0402。日本規格協会，84p.

MATSUE Chisayo (1992): How to confirm the locality of rock specimens —Curator’s suggestions to the field geologists.

〔受付：1992年10月22日〕

募 集

『私の推薦する天然記念物』

あなたが天然記念物に推薦したい露頭や地形などを、写真に簡単な解説を付けて本誌編集委員会までお寄せ下さい。応募資格は特になく、地質調査所の職員である必要もありません。気軽にご応募下さい。

<原稿の書き方>

写真：カビネ〜六切りサイズのプリント版（カラー可）1〜2枚。

図面：必要に応じて付ける。写真と合わせて2枚以内。

解説：1行23字で30〜60行程度。写真や図と合わせて1ページに収まるように。